

キーワードを入力

条件を指定して検索

スマホでもY!ニュース: アプリ カカオトーク

ニュース トピックス 写真 映像 地域 雑誌 個人 意識調査 ランキング

主要 速報 国内 国際 経済 エンターテインメント スポーツ IT・科学 ライフ ニュース提供

[PR] 50歳でも70歳でも保険料3000円の医療保険！（補償は異なる）

IT・科学 IT総合 科学 製品

82

【木暮祐一のモバイルウォッチ】第30回 ますます面白くなる音声エージェントサービス

RBB TODAY 5月12日(日)16時43分配信



筆者個人の利用パターンでは、Siriのリマインダー機能が重宝している。「～をリマインド」と発声するとアラーム付きのリマインドを登録できる。

筆者の注目しているスマートフォン向けサービスの一つがAppleの「Siri」に代表される音声エージェント系サービスである。スマートフォンに話しかけることで、まるでスマートフォンが秘書のごとく、端末機能进行操作してくれたり、Webから情報を引き出してきて提示してくれる。Siriに対して、NTTドコモでは「しゃべってコンシェル」としてAndroidスマートフォン向けにサービスを提供しているし、KDDIも「おはなしアシスタント」というアプリを提供している。またYahoo! JAPANでも、Yahoo!のコンテンツを有効活用した「音声アシスト」というアプリをAndroid向けに提供する。

[他の写真を見る](#)

これら音声エージェント系サービスは、わが国ではまだまだ利用が少ないように感じられる。わが国の場合、どうしても人前で声や音を出すことに抵抗を感じる方も多いようで、スマートフォンに話しかけるという行為がなかなか受け入れられないのだろう。Siriもしゃべってコンシェルも、通話しているようにスマートフォンを耳に当てて発話できるような機能も搭載されているが、それでも利用を増やすところまでは結びついていなさそうだ。

筆者もこれまで積極的に音声エージェントを利用するほうではなかったのだが、4月からそれまでの都心近郊での鉄道利用中心の生活環境から、地方都市でのマイカー移動中心の生活環境に変わったことで、改めて音声エージェントの便利さを痛感するようになってきた。

筆者は、iPhoneとAndroidスマートフォンの両方を持ち歩き利用しているが、やはり「直ちに」音声エージェントを起動できるという点ではSiriに軍杯が上がる。Siriの場合、iPhoneが

肌に
ニキ
しつ

クリニック
アクネケ
毎日の3
スタート。

CLINIC
The 1st. 100%

コンピュ

070携帯
ドコモ、
法外ス
いま話題
新「Nex
アマゾン
スマホ音
YouTube



多様な
テーマを
徹底
Yahoo!
有料二

スリープ状態（ディスプレイが消灯していてロックされている状態）からでも、ホームボタンを長押しすることで、画面ロックを解除しなくても起動させることができる。この「ワンプッシュ」という即時性が格段に使いやすいのである。たとえばマイカーで移動中、信号待ちなどのちょっとしたタイミングなどでスマートフォンを操作するシチュエーションで音声エージェントは役立つ。こうしたシチュエーションでは画面を見ながらロックを解除しアイコンをタップするといった操作では手間がかかってしかたない。しかしSiriならブラインドタッチも可能なホームボタンを長押しすることで音声入力のスタンバイ状態になる。あとはiPhoneに話しかければよい。

Siriやしやべってコンシェルは他愛のない会話も成立する完成度の高い音声エージェントであるが、筆者の実際の利用シーンではリマインダーやメモの入力に使うことが多い。マイカー移動しながら「あ、あれをやっておくのを忘れてた！」「あれを買わなくては！」といった備忘録から、ちょっとしたアイデアがひらめいた際のメモなどで大いに役立ってくれる。そうしたときにSiriを起動し、音声で話しかけてメモをとるのである。

iPhoneには「リマインダー」と呼ばれるアプリがプリインストールされているが、このリマインダーにSiriを通じて音声で備忘録を登録することができる。実際の使い方はこんな感じだ。

「チケット購入をリマインド」とSiriに話しかけると、リマインダーへの登録が始まる。Siriが「いつお知らせしましょうか？」と尋ねてくるので、たとえば「今夜9時」という具合に発話すれば、アラームを設定したリマインドが作成される。

アラーム通知が不要な場合は「～を覚えて」と語尾につければ、アラームなしでリマインダーを設定することもできる。

「トイレトペーパーを覚えておいて」と発話すれば、リマインダーに「トイレトペーパー」が登録される。買い物リストや備忘録として大変重宝する。

一方、経路検索や飲食店を検索するといったWeb検索を音声エージェントで行うケースでは、色々工夫された音声エージェント系サービスがサードパーティから多数提供されている。しゃべってコンシェルももちろん優秀ではあるが、検索結果の候補が多い場合などの絞り込みで手間がかかることもある。こうした検索における絞り込みのロジックを工夫したアプリの事例としてiNAGO社の「mia」がある。miaもSiriやしやべってコンシェルと同様な音声エージェントアプリであるが、検索結果が多かったり、逆に少なかった場合、miaはユーザーとの会話から文脈や状況を判断し、検索結果の絞り込みや範囲拡大を促す追加の質問をしてくる



IT・科学

記事



モー

十勝
るiPho
ス「
ニコ混沌
Micro
ス)スマ
ー世
ー「
ユー

雑誌

月額
話も
ト)のび
(we99円
けら
14時

ことで、よりの確にゴールとなる検索結果にたどり着ける（もちろん、必ずしもすべての検索で万全な結果を返してくれるというわけではないのだが）。

ユーザーの秘書代わりに活躍してくれるこうした音声エージェント系サービスはまだまだ発展途上である。ユーザーが求めていることをいかにアプリが吸い上げて行くか、あるいは検索結果をどのように判断して、ユーザーの求めるものにふさわしい結果を出せるかといったところが今後の進化における差別化のポイントになっていきそうだ。

先日ソフトバンクモバイルの夏モデル発表会では、SoftBank HealthCareという、リストバンド型活動量計とスマートフォンが連携するサービスがリリースされたが、ユーザーのバイタルデータの収集と活用は今後注目されていくことになるはずだ。こうしたバイタルデータを直ちに音声エージェント系サービスと結びつけるのは容易ではないが、たとえばユーザーの健康状態を踏まえてWeb検索結果の絞り込みまでしてくれるような、おせっかいな音声エージェントサービスが登場してもおかしくはない。たとえば、「近くのレストランを探して」と検索を頼んだ際に、「今日は消費カロリーが少ないようなので、ヘルシーなレストランを提案しますよ」といった問答が展開されるかもしれない。

また、MTIはiPhone向けに「ココロミルミル」という感情認識アプリを提供している。このアプリを起動して会話を拾うと、話している人の「喜怒哀楽」といった感情を画面に表示してくれる。これは株式会社AGIが開発した「音声から感情を分析できる技術」を応用したもので、話す音声から感情を抽出している。テキスト分析ではなく「音声」そのものからの分析であるので、言語の種類を超えて利用可能だ。たとえば、音声エージェントにこうした感情認識技術が取り入れられたとしたら、「何か音楽を聴きたいんだけど」というような発話の際に、そのユーザーが喜んでいるのか、悲しんでいるのか、怒っているのか、平静なのかを判断することで、より気分に合わせて楽曲の提案が可能になるはず。

以上、筆者の思いつきで語っている部分が多いが、改めて音声エージェント系サービスを色々試すようになり、その精度が確実に向上していることを感じるし、またエージェントとして役立つための様々な要素技術が取り込まれてきたことも分かった。今後もますます進化を遂げて行くことになるだろう。そうしてスマートフォンは着実に、ユーザーの秘書代わりに活躍してくれるツールになっていくはずだ。

【関連記事】

[【テクニカルレポート】しゃべってコンシェルにおける質問応答技術……NTT技術ジャーナル Googleとクラリオン、音声認識・検索サービスで提携](#)
[DNPとアドバンスト・メディア、“食品発注”に特化したスマホ向け音声認識システムを開発](#)
[【CEATEC 2012 Vol.52】NTTドコモ、ドライブネットの音声認識機能デモを実施](#)
[木暮祐一のモバイルウォッチ 特集](#)

最終更新:5月13日(月)0時8分

他のラン
コメント

注目の商!

最先端
個人の
コレス

